

宮島沼の会 2020年度 e-水プロジェクト活動計画

● スライド1

宮島沼の会はラムサール条約登録湿地である宮島沼と保全と持続的な利活用を進める市民団体です。この度、e-水プロジェクトの助成をいただき『湿地とアートプロジェクト』を実施します。

● スライド2

近年、地球規模の自然環境の消失と劣化が急速に進み、大きな問題となっています。自然環境の保全と持続的利用のためには根本的な社会的転換が必要とされていますが、そのためには社会全体として自然への理解向上が不可欠です。しかし、今は自然と接する「経験の消失」時代と言われ、自然体験の減少によって自然に対する興味や関心、保全意識が衰退し、そのことが更なる自然環境の消失と劣化につながると危惧されています。

そこで、宮島沼では、広く学校教育の中で子供たちの自然への興味や共感を育むため、造形活動を通じた自然認識の構築を可能とする美術教育に着目し、湿地保全と融合したカリキュラムを作成することで、地域の自然への共感と自然の保全再生を両立する地域モデルの確立に着手したいと考えています。

● スライド3

プログラムの第一部として、自然素材を用いた野外作品を手がける現代美術作家である大矢りかさんをゲストにネイチャーアートワークショップを行います。大矢さんから、作品に込められたメッセージ、作品をつくる上でのポイントなどについて講演をいただき、自然素材を用いた作品づくりに挑戦します。

● スライド4

作品づくりの自然素材としては、刈り取りが宮島沼の水環境改善につながると期待されるヨシや、外来植生であるオオハンゴンソウとオオアワダチソウなどを採取し、宮島沼の保全活動とリンクさせます。

● スライド5

プログラムの第二部として、授業で実践できるカリキュラムづくりワークショップを行います。教育分野の専門家をファシリテータに迎え、小中学校の教員、湿地保全活動の実践者などとともに、自然体験と美術教育を融合させたプログラムを考案します。プログラムは次年度以降宮島沼で実践したいと考えています。

● スライド6

本プロジェクトの成果は、宮島沼の会のウェブサイト「ミヤトモ」で報告します。また、湿地保全におけるアートからのアプローチについては、ラムサール条約の「湿地と文化」ワーキンググループにおける「湿地とアート」部会、台湾の関渡国際自然芸術祭や成龍湿地国際環境芸術祭などの国際的取り組みがありますが、これらの大きな潮流における本プロジェクトの位置づけや意義などについて学術的にまとめ、日本湿地学会誌において報告したいと思っています。

● スライド7

プロジェクトのひとつの展望として、担い手不足と湿地の環境変化からなくなってしまったオオカサスゲを用いた大富甚社の大しめ縄づくりの復活を考えています。

● スライド8

プロジェクトは、市内の「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」ならびに美唄市教育委員会、湿地関係団体として石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワークと北海道湿地コンソーシアム、地域の子どもたちを代表して自然戦隊マガレンジャーなどと共に推進していきます。

● スライド9

新型コロナウイルスによって先行きが見えない状況ではありますが、プロジェクトのキックオフを10月に予定していることから、8月を目途に実施の可否を判断したいと思います。それまで、内容の一部変更も視野に準備を進めていきます。